

キリエ

知っておきたいキリスト教のことは (58)

「キリエ (Kyrie)」という言葉はラテン語で、ギリシア語「キュリオス」の呼格である「キュリエ」と同じ意味を持ちます。「キュリオス」は日本語では「主(しゅ)」にあたりますので、「キリエ」は「主よ」という意味になります。

聖公会の聖餐式では礼拝の最初の方で、「キリエ・エレイソン」と歌うことが多くあります。しかし聖公会の教会に行き始めたころ、わたしは正直何を言っているのかよくわかりませんでした。



祈禱書の 163 ページをみると、この部分は、①「栄光は、父と子と聖霊に...」、②「主よ、憐れみをお与えください...」、③「ほめ歌え、全能の父なる神を...」のうち一つを選択し、歌いまたは唱えることになっています。そして②「主よ...」のかわりに「キリエ・エレイソン」を用いてもよいことになっています。

その中で「キリエ・エレイソン」は古代から多く用いられてきた祈りであり、東方教会の典礼の中でも最も頻繁に出て来る祈りです。そのため教会では、「キリエ」というと「キリエ・エレイソン」という祈りを指すことが多く、聖公会の礼拝の中でも多く用いられているのです。

さて、この「キリエ」を唱えるときには、その意味を心に込めて祈りたいものです。聖公会での祈禱書では、「キリエ・エレイソン」を「主よ、憐れみをお与えください」と訳していますが、正確には「主よ、憐れんでくれ！」という命令形です。

わたしたちは自分の力だけで歩くことができません。神さまに拠らなければ、進むことができないのです。だからわたしたちは礼拝のたびに、主の憐れみを強く求めます。そして礼拝の中でたくさんの恵みを受け、またそれぞれの地に遣わされていくのです。

今回は「キリスト」です。お楽しみに。